

鄆閣頌

建寧五年(172)
(後漢時代)

雄大な摩崖刻石④

木
雞
室

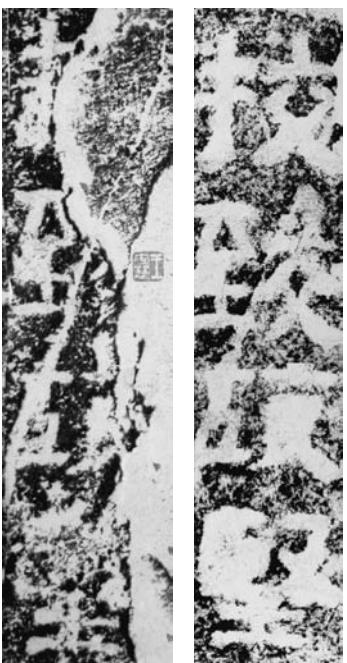
伊藤
滋

木
雞
室

図版②



図版③
「校致攻堅」の四字比較



近拓

旧拓

郡閣頌の原石は、現在は陝西省略陽
県の靈巖寺の壁面に移設されています。
大きく破壊され、民国時代の拓本と比
較すると三、四割りほどの文字が失わ
れました。李翕の事績を記した「西狹
頌」と共に漢代摩崖の代表作です。
『西狹頌』は保存状態が大変好いです
が、この郡閣頌は、古い拓本でも字画
を鮮明に見ることができません。左頁
の整拓部分図版①として示した巻頭部
分は保存状態が好い部分ですが、他の
摩崖碑に比べて大変に見にくどころ
があります。図版に見るように、文字
の縦横の間隔はほとんどなく、まるで
升目に詰め込んだような章法（文字布
置の方）です。二世紀後半の隸書が隆
盛を極めた時代の摩崖ですが、一見す
ると古隸のような趣を示していますが、
八分隸に見られる波磔や抑揚のある筆
遣いを確認することができます（選字）

伊藤 滋
mokkei@galaxy.ocn.ne.jp

図版②参照）。先人は、こうした郡閣
頌の書風を「古樸」（樸・飾り気のな
いの意）と評しています。辺境の摩崖
という状況の上に、自然の風化による
破損が加わり、書かれた当時の書風を
窺うことは大変難しいです。学んだり、
鑑賞したりするときに鮮明に見ること
が出来ないがために、却って学ぶ側の
想像の余地が大きくなり、それがこの
書の魅力の源ではないでしょうか。近
代の拓と旧拓との相違は、図版③に見
るよう僅かな部分です。

次回は、「禪國山碑」です。この欄
に関するご批評、ご意見、ご希望、ご
質問などをお聞かせください。私宛に
直接メールで、また編集部宛にお送り
いただければ幸いです。

図版①（原寸）

沛

惟

激

斯

揚

析

絶

里

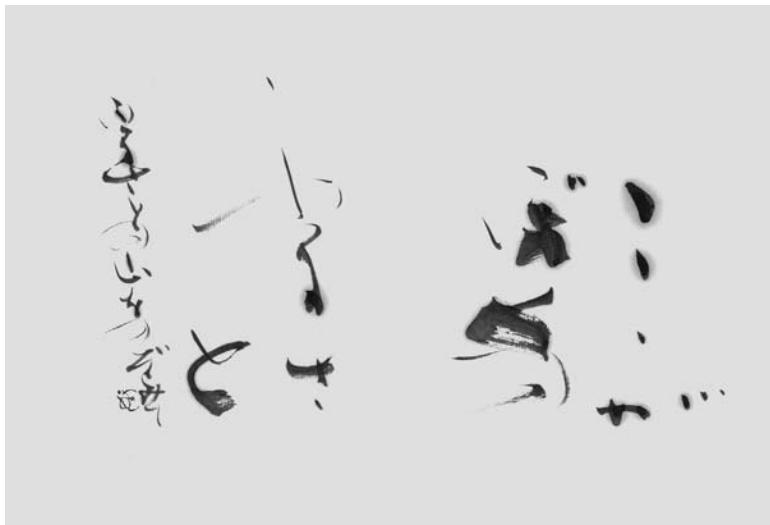


書道芸術院

平成の群像 (2011)



尾形澄神



「ここがぼくのふるさと ふるさとの山をのぞみて」 17×24cm

昨年、故郷に帰つてからというもの、自分の言葉を書くことが多くなりました。今は、自分の言葉だけを書に残したいという気持ちが強いです。

俳句を作つたり、時に歌を詠むこともありますが、私が作る詩は、頭の中に浮かんだ言葉をただ並べているだけで、文学的な評価は全く得られません。それでも、自分の中にある言葉を書きたいと思うのです。現代詩文書の醍醐味は、そこにあると感じています。

いつも、琴の弦を弾くような響きの高い線質を出したないと考えて評してくださいたら、それは無上の歓びです。

作品を書くとき草稿を作りません。詩文も、作品を書きながら同時に進行で、ひらめいた言葉を紡いでいくパターンが多いです。これは昔からの習慣で、常にワクワクドキドキしながら紙と対峙したいからです。求めるのは新鮮さと偶然性です。ですから、出来るだけ同じ言葉を同じ構成で二枚以上仕上げないようにしています。マンネリになることを恐れるからです。私が何度も繰り返し書くのは臨書の時だけです。作品は作られたものより、生まれ出たものを最上とします。一期一会の作品を書きたいという欲求があります。このように、行き当たりばったりで作品を書いています。A型の人間でありながら、ぶっきら棒な書作態度ですが、これが私の性に合っています。

私の作品書きは、目的地を決めずに旅に出るようなもの。いつどこでどんな風景に出会うかわかりません。それを楽しんでいます。これからも、そういう旅を続けていくつもりです。

最近、私が刻った印のいくつかが、宮澤梅径先生のお目に留まり「遊び心があって面白い」と仰ってくださいました。好き勝手にやっていますが、篆刻は今、私の大きな楽しみであります。自分の言葉を書き、自刻の印を押す。これが、これから私が歩いてゆく書の旅だと思っています。

私が歩いてゆく書の旅

書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

秋季展・推薦作家展盛況に

春の本展に対し選抜作家による企画展として「書道芸術院秋季展」の名称では1978年からで、それ以前は「選抜展」「秋季選抜展」などいろいろな企画展が開催されてきた。本年は新たに「推薦作家展」を併催企画し、本展峰雲賞選考での峰雲賞尾形澄神さんはじめ各部で最終ノミネートされた5人による、一人5メートル余のスペースで意欲的な作品発表を行っていただいた。会場がアートサロン毎日となり、東京セントラル美術館から移動しての開催となりご不便をおかけしたが、反響は大きく、企画は大成功であったと思う。

セントラルでの役員、審査会員選抜100点と、5年目となった審査会員候補公募300点余より秋季菊花賞10点と40点の入選、計150点の展覧も多くの反響をいただき盛況であった。

ご高覧、ご協力に深く感謝申し上げたい。(詳報別掲)

秋の昇級試験実施

本院および全日本学校書道連盟発行の競書誌「書の教室」「書道芸術」では毎年春と秋に特別昇級試験を実施している。毎月の競書審査で昇級するク

ラス(級位)の方も受験されるが、上位の段位のクラスは特別昇級試験を受けなければ昇段できないシステムになっているが、かなり厳しい面もあるが半年なり一年の練習を経て受験することの制度の意味をよく理解していただきたい。しかし、特に上位のクラスでは昇段が見送られる方が多くなる。中には何回も挑戦して上に上がれないと落胆されている方もおられる。厳正な中に一人の人格として暖かい配慮をしつつ審査は行われる。ご理解いただき、くじけずに一步一歩前進していただきたい。

第65回展作品出品規定発行

いよいよ第65回記念書道芸術院展が迫ってきた。昨年に続き都美改修中の3会場での開催となり、会員諸氏にはご不便をおかけする。特に64回展では

大震災のため東日本展が開催できず誠に残念であったが、65回展は記念展に当たり更に一致団結して成功させたい。

6月の運営委員会を経て作品出品規定が9月末に発送(ヤマトメール便)され、既に会員、一般公募出品経験者の手元に届いていることと思う。も

し未着の方がおられましたら至急事務局へご報願したい。会員へは本年度の会員名簿も同送。

東日本大地震の影響、とりわけ東北地区の会員、一般公募の皆様の厳しい状況を思うと何ともやりきれない、心痛む想いであります。お一人でも

多くの方のご出品、ご参加を切望したい。巡回展など記念行事も規模を縮小しながらもしっかり実行して参りたいと思いつので、ご協力、ご支援をよろしくお願いします。

山本聿水生誕100年記念展 白玄会創立60年書展盛況に

く充実した展覧であった。詳報は次号。

パリ・ギメ東洋美術館打ち合わせ

来年3月に開催予定の「日本現代の書代表作家パリ展」開催に向け、毎日書道会系賀専務理事、西村事務局長ほか4名で10月16日よりパリを訪問。開催に向け具体的な打ち合せを行った。

本年7月毎日展開催に合わせ来日したラリーにて開催され、山本聿水先生の遺作17点は収蔵元の高崎市タワー美術館より借用、ほかに今回初展示された折帖、漢字条幅作品など見応えある展示であった。先生所蔵の棟方志功作、書簡なども展示されていた。

会員作品は前衛作品ばかりでなく漢字・かなの創作、臨書など多彩で楽し

たため、中央展、西日本展、東日本展との3会場での開催となり、会員諸氏にはご不便をおかけする。特に64回展では

陳列担当、広報担当、開幕セレモニー、エレース・バイユー学芸員を中心とした記者会見、デモンストレーション、ワーキショップなど細目にについて打ち合わせを行った。

日本大使館への協力要請もお願いし、また収蔵されている金子鷗亭、手島右卿両先生の遺作のギメ美術館への借用のご快諾もいただいた。

来年3月14日より2か月間開催される本展は、物故作家(金子鷗亭・手島右卿・宇野雪村・松井如流・飯島春敬)5先生のほか毎日書道会役員より35名の計40点を陳列する予定である。

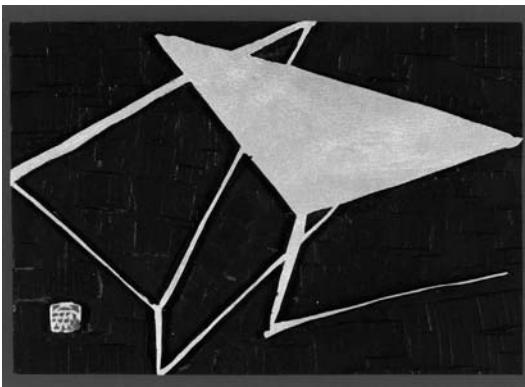
本院出品者は恩地春洋・辻元大雲・下谷洋子の3氏である。

2013年10月には同美術館にて毎日書道展65回記念行事として代表作家100人展を予定している。

本展は国立美術館としての一大企画展となり、毎日書道会との共催として大きな意義ある展覧会となる。

刻字(二)

小山鳳来



小山鳳来刻

師中澤帰雲先生は石井雙石先生に篆刻を教び香川峰雲先生と同門であった。中澤先生は戦中に疎開、戦後も福島に住まっていた。或る日四谷の路上で偶然峰雲先生と再会、峰雲先生の奨めもあり中澤先生も本格的に刻字を始められることになった。

号令一下、私達は板に向いノミを使いはじめたが参考になる作品も書籍も

年もすれば酸化して黒くなる始末、それでも書の合間に使うノミは新鮮で楽しかった。

少なく五里霧中で、材料の板も薄く途入った昭和49年1月、師中澤先生が発病手術、全快を信じて作品の制作に励んだが搬入を目前に先生は他界、途方に暮れた私達だったが峰雲先生のお力添えで出品の運びになった。

主を失った舟は目的を失いかたが峰雲先生が面倒を見て下さることになり書道芸術院にも加えていた。田舎で細々と刻字をはじめたものの中央書壇の何かも判らず本当に戸惑つた。多くの先生方に迷惑をおかけし今でも申し譯けなく思っている。

師の志を継いで愚鈍なりに努力をして来た四十年の書の人生だった。

21世紀の書 —私の主張—

漢字(二)

加瀬澄春



加瀬澄春書

書道の勉強には臨書は不可欠です。では競書の他、何から勉強したらよいでしょう。姿が美しく整って品格の高い唐時代の楷書、または素朴で力強く情趣豊かな北魏の書。唐時代は完成された言わば常識、それ以前の書は情緒を養うのです。行、草は多少傾斜したり大小の差があつてもOK、調和をとつて書けばよいでしょう。十七帖はかなの基本、書譜は孫過庭の卒意の書、これに蘭亭叙を加えて古典の三大ビタミンでしょうか。この三種類は身近でありまた遠く初心

から入りますが到達はありません。終生の古典でしょう。
我が師の教えに『三多』があります。
①多く書く②多く見る③多く知る。①は古典の臨書、日々の努力。②③は師と相対で半紙や条幅に書くだけでなく展覧会等に足を運んで作品を鑑賞する、よい作品を多く見て徐々に自らを高め書道の楽しさを知る。先人の書に対する知識等も吸収したい。書道史も欠かせないと先生は書道史講座も開いたが不遜にも弟子の欠席が多くいつか頓挫してしまいました。

私は第27回書道芸術院展が初めての出品でした。仲間と旧都美術館に出かけ書道展を初めて鑑賞しました。最初の多く見るのスタートでした。

から入りますが到達はありません。終生の古典でしょう。
我が師の教えに『三多』があります。
①多く書く②多く見る③多く知る。①は古典の臨書、日々の努力。②③は師と相対で半紙や条幅に書くだけでなく展覧会等に足を運んで作品を鑑賞する、よい作品を多く見て徐々に自らを高め書道の楽しさを知る。先人の書に対する知識等も吸収したい。書道史も欠かせないと先生は書道史講座も開いたが不遜にも弟子の欠席が多くいつか頓挫してしまいました。

特集：書道芸術院秋季展

書道芸術院秋季展

審査会員選抜作品
審査会員候補公募作品

会期 平成23年10月4日(火)～10月9日(日)
会場 東京セントラル美術館

秋季展実行委員長

後藤 大峰

た。

錦秋の銀座に更に彩を添える「書道芸術院秋季展」本年も銀座セントラル美術館にて開催された。

今回展は例年の財団役員、審査会員選抜、過年度峰雲賞受賞者の各先生方と審査会員候補の公募による入賞、入選作品に加え、新たに「推薦作家展」と銘打ち、会場を竹橋の毎日アートサロンに会場を設け同時開催された。

推薦作家の選抜の内訳は、第64回書道芸術院展にて全5部門中、峰雲賞受賞最終選考に残った、候補者5人を指します。

10月4日には恒例の表彰式、研究会が開かれ、推薦作家の紹介、秋季菊花賞の表彰、入選者への賞状授与が行われます。

次に研究会が実行委員の進行にて行われ、まず、推薦作家が紹介され、5人各氏が、次に秋季菊花賞受賞者が紹介され、それぞれに制作意図、作品に対する思いなどを発表した。その中で漢字部の崎井恵風さんはこの3月の東日本大震災を取り上げた作品について語り、「作品は創るものではなく必ずと生れるもの」と話され研究会参加者に感銘を与えた。その後、秋季菊花賞受賞者と各部選考委員（助言者として）とが加わり受賞者、選考委員、研究会参加者が受賞作品について白熱した討論を交えて研究会は大いに盛り上がりを見最後に辻元大雲理事長により

全体の総括を述べていいただき終了した。

その後、ご来賓をお招きし恒例のレセプションを行って初日を終えた。



会場入口

書道芸術院秋季展〈審査会員候補公募状況〉

部	出品点数	出品人数	秋季菊花賞	入選	落選
漢字	132	83	4	16	63
かな	18	14	1	3	10
現代詩文書	91	59	3	12	44
前衛	73	39	2	8	29
篆刻・刻字	1	1	0	1	0
計	315	196	10	40	146



(秋季菊花賞受賞者の皆さん)



辻元大雲理事長あいさつ
(表彰式)

〈併催〉 推 薦 作 家 展

会場=アートサロン毎日（毎日新聞社内）

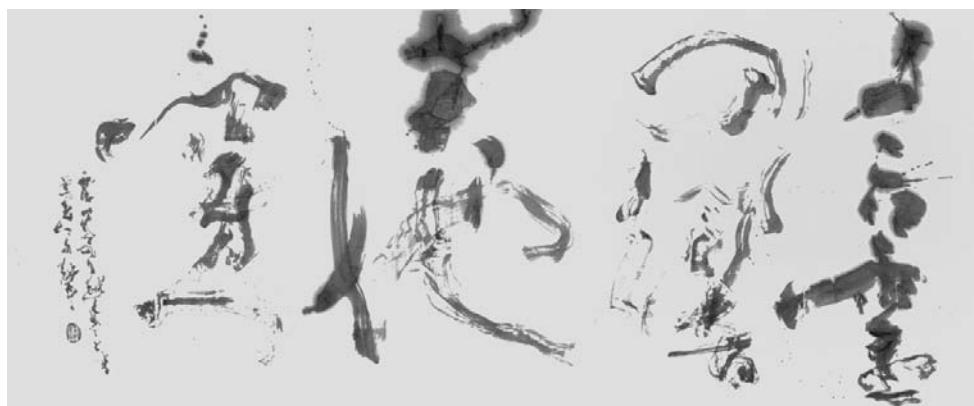
《崎 井 恵 風》



〈追弔〉

113×205cm

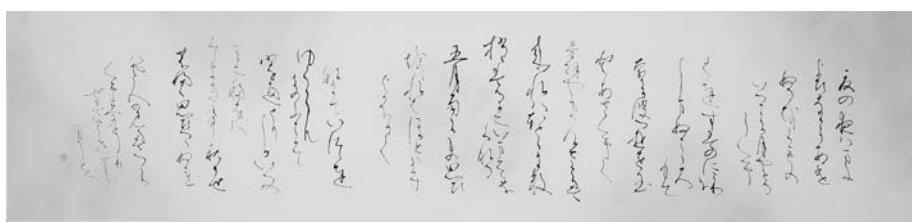
《尾 形 澄 神》



〈勇者たちの聲〉

180×436cm

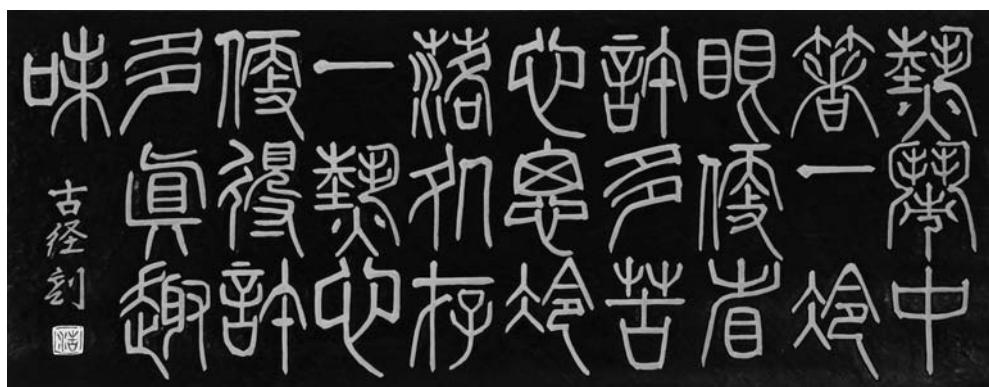
《天海矩子》



〈稻葉の風〉

53×226cm

《小林古径》



〈時には冷静、時には情熱〉

68×155cm

《大石仙岳》



〈山岳〉

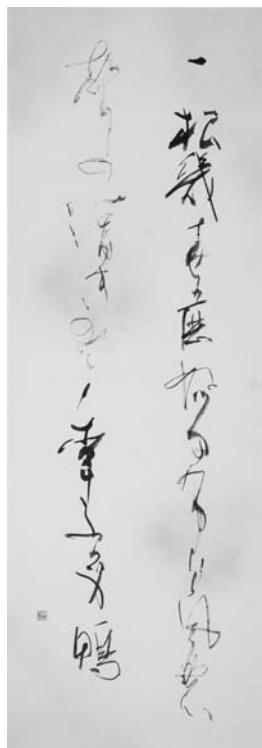
100×180cm

〈村上喜代子句「龜鳴へと」〉



常任総務 広瀬舟雲 70×138cm

〈一つ松幾代〉



常任総務 田村澄子

180×60cm

〈たんぽぽのうた〉



総務 佐久間 ふく子 70×150cm

〈耕一の句〉



常任総務 田村鄭雲

150×75cm

〈今〉

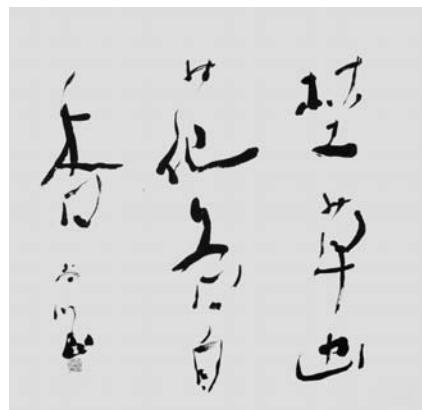


総務 川島舟錦

120×90cm

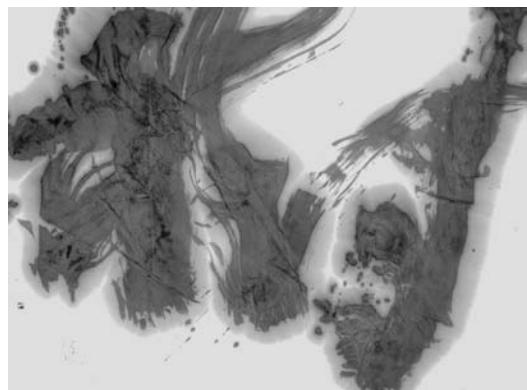
〈野草〉

常任総務 濱田尚川



90×90cm

〈樹〉



常任総務 水野春翠 91×121cm

〈透明な秋〉



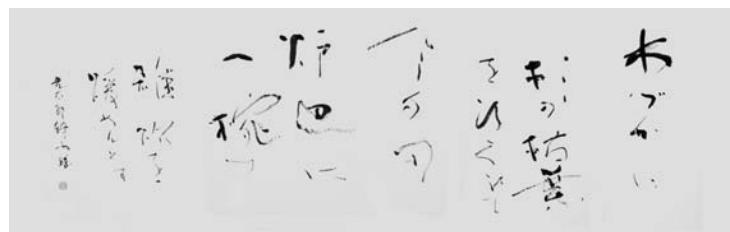
常任総務 小池蹊舟 56×172cm

〈飛翔〉



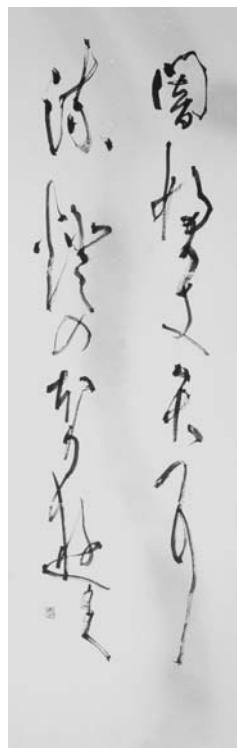
常任総務 大井美津江

〈雪白く積めり〉



常任総務 西岡雨瑠 60×180cm

〈石原八束の句〉



175×55cm

常任総務 奥田瑞舟

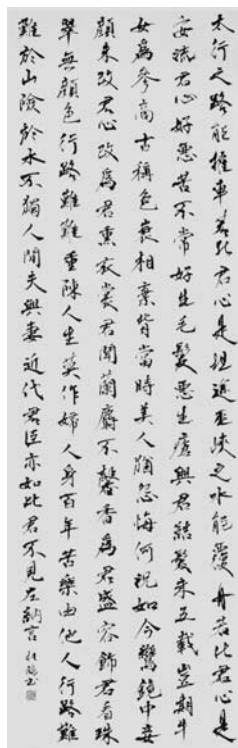
〈ココロ（心）〉



182×60cm

常任総務 新井京華

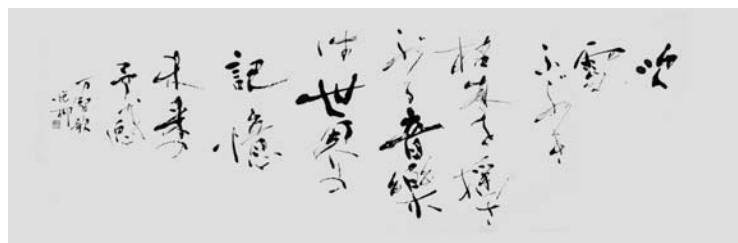
〈白居易詩〉



175×55cm

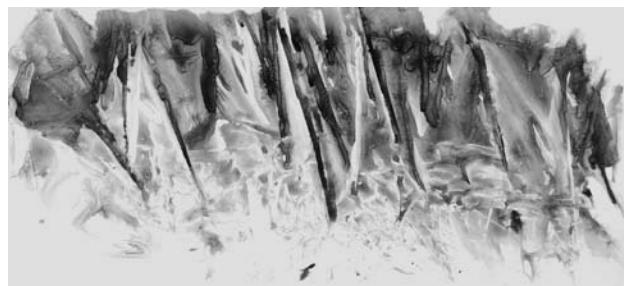
総務 森地桂鶴

〈儀万智の歌〉



常任総務 出原悦柳 60×180cm

〈共生〉



平岡 千香子 70×152cm

特集：書道芸術院秋季展

〈山の端の月〉



常任総務 大辻 多希子 53×175cm

←ARU→在

常任総務 真下京子



120×90cm

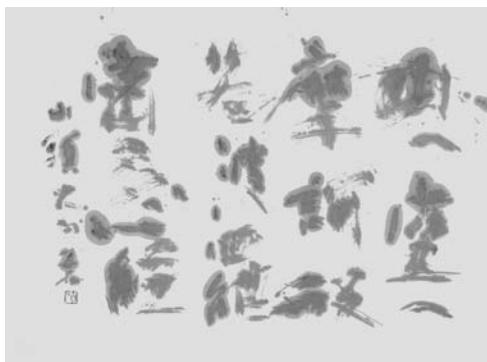
←SIN→魂↓

常任総務 太田蓮紅



118×88cm

←折り→



常任総務 畑中弄石 87×113cm

←輪廻転生→



常任総務 東福青菴 60×180cm

〈故郷〉



総務 国吉真雲 55×175cm

〈遊〉



常任総務 依岡紫峰 81×111cm

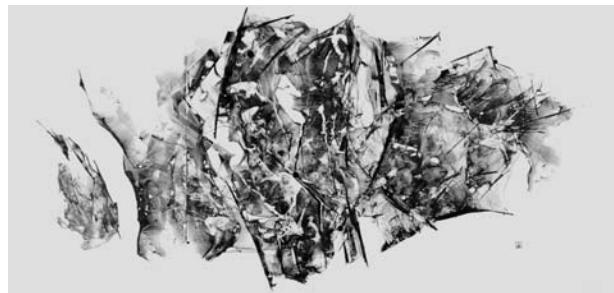
〈固い絆〉



総務 寺尾京華

136×70cm

〈地異〉



総務 石田和子 73×152cm

〈築井登の詩〉



常任総務 大平邑峰

180×60cm

〈井越芳子の句〉



総務 山崎掃雪 90×117cm

審査会員候補

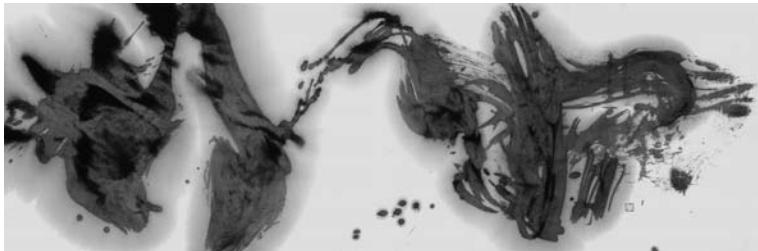
秋季菊花賞

（みちのく美し）



山田翠香 60×180cm

（霞）



佐々木 青霞 61×182cm

（銷夏詩）



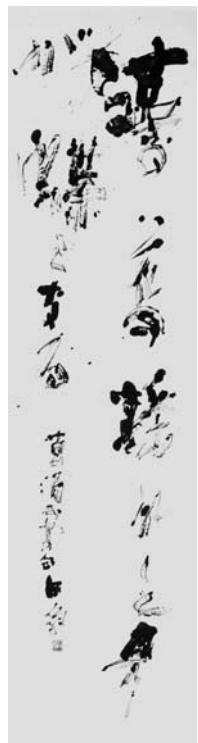
森田藤谷 57×176.5cm

（陶淵明詩）



147×68cm

（菖蒲あやの句）



天野白扇

180×45cm

猛



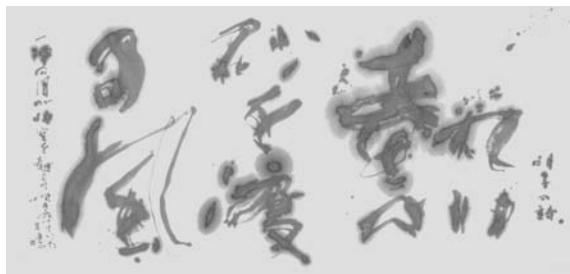
152×73cm

鉢
匡子

審査会員候補

秋季菊花賞

絹道の風



乙倉翠芳 68.5×142cm

重別李評事



175×53cm

川嶋里美

時



朝倉希代子 91×121cm

ことくことく



田村玲子 53×176.5cm

「金文」に魅せられて

大 越 墨 扇

(漢字部・審査会員)

吾妻 晴れ山 曇り山
くもりのち晴れ 人の世も

(浜田 広介作)

雪深い上杉の城下町米沢で育ち、暖かい千葉の地に嫁いで、40余年、郷土の詩人が詠んだこの詩を想い、懐かしい。—そして主婦として勤しんできた自分が、今、こうして「書」を学べる幸運一をかみしめ、小さな足とを振りかえってみた。

子育ても一段落、「サア！自分の趣味を！」と近くの社会保険センターの「書道講座」を受講、これが「種谷扇舟」先生との出会いであった。

講座は扇舟先生の講義「書とは」他中国書道史、実技など10回で終了するもので、私には難かしい感じもしたが美しい文字の板書を必死でノートしたり、筆を持ったり、久々に学生時代にかえたような新鮮な充実感を覚えた。

とりわけ、数回ご一緒にした中国の旅である。少々過酷であったが、毎回充実感を味わわせて頂いた。

初訪中は、1989年(天安門事件)山東省濰瀘での「扇舟書法展」である。北京から列車で13時間という会場は人の波、鼓笛隊の歓迎や盛大なセレモニー、

中国の人々の先生に対する熱い絆を感じ興奮したこと焼きついている。この後の雲峰山、天柱山、泰山、等の摩崖碑との対面も「本物に触れる」喜びや驚き！雄大な自然の中で鄭道昭ならずとも大書したい気分だった。

以来、古典を巡る感動の旅は続いた。「雁塔聖教序」の出会いも想い入れが激しく、柵越しで見ているのに一字

萬城先生、多くの先生、そしていろいろな「想い」を共有できる「書友」に支えられて来たこと感謝したいし、私の大きな宝となっている。

扇舟先生にはいつも励まして頂いた。雅号の「墨扇」は「よい墨色だね」と（淡墨だった）戴いたものだ。が、未だ良い色を出せず申しわけなく思う。先生との思い出はたくさんあるが、

こうして、繼續できたのも扇舟先生、

萬城先生、細くて強い線へのあこがれだった。

そうこうしているうち萬城先生にご指導頂く日が訪れた。この頃の先生の作品発表は「金文」によるものが多く、それは、私の「金文」との出会いでもあった。

詩文も「詩經」が加わり巾広くなっ

たがこれをいかに表現させるか試行錯誤し、あこがれの長却「王孫遺者鐘」のようないい墨色だね」とぎつけた。

そんな事が功を奏してか評価を戴く時が来た。うれしい限りである。これも「金文」のお陰と先人に感謝したい。

数多い青銅器を所蔵する京都の「泉屋博古館」で深閑とした館内に鎮座する数十の偏鐘の部屋で古代人が鐘を奏し踊る姿を見た？ 幻影か妄想か――



萬城先生との中国の旅は、博物館や遺跡が多く、青銅器との出会いもそうであった。殷代から鋳造されてきたという青銅器は数多く收藏され、造形や紋様の多様で美事な莊厳さに驚いた。人々の神への祈りが聞こえてきそうな不思議な誘いであった。

そして、先生の講義は時代背景から文字の成り立ち、実践へと興味をそそり、すっかり魅せられていった。台灣故宮博物院での「散氏盤」「毛公鼎」との出会いは、拓本では味わえない、いろいろな「重み」を感じた。

数千年の「時」を経てあの文字による、作品づくりに徐々に熱が入り「字統」や「甲骨金文辞典」と首引きで、一文字一文字との出会いは、ワクワクさせてくれた。

詩文も「詩經」が加わり巾広くなつたがこれをいかに表現させるか試行錯誤し、あこがれの長却「王孫遺者鐘」のようないい墨色だね」とぎつけた。

そんな事が功を奏してか評価を戴く時が来た。うれしい限りである。これも「金文」のお陰と先人に感謝したい。

数多い青銅器を所蔵する京都の「泉屋博古館」で深閑とした館内に鎮座する数十の偏鐘の部屋で古代人が鐘を奏し踊る姿を見た？ 幻影か妄想か――

小さな「教室」を開くことが出来た。生徒と共に学び「書」に関わることがご恩に報いることと考え励んでいる。

用紙 半紙普通判 左の法帖の中から
何文字臨書してもよい。（掲載部分以外は不可）

〈解説〉

端正な字形と整然とした筆法の蘇孝慈墓誌銘は、美人董氏墓誌銘とともに隋代石刻の名品である。明るく爽やかな線質と構成の平易さは、明朗闊達で健康感に溢れている。形は正

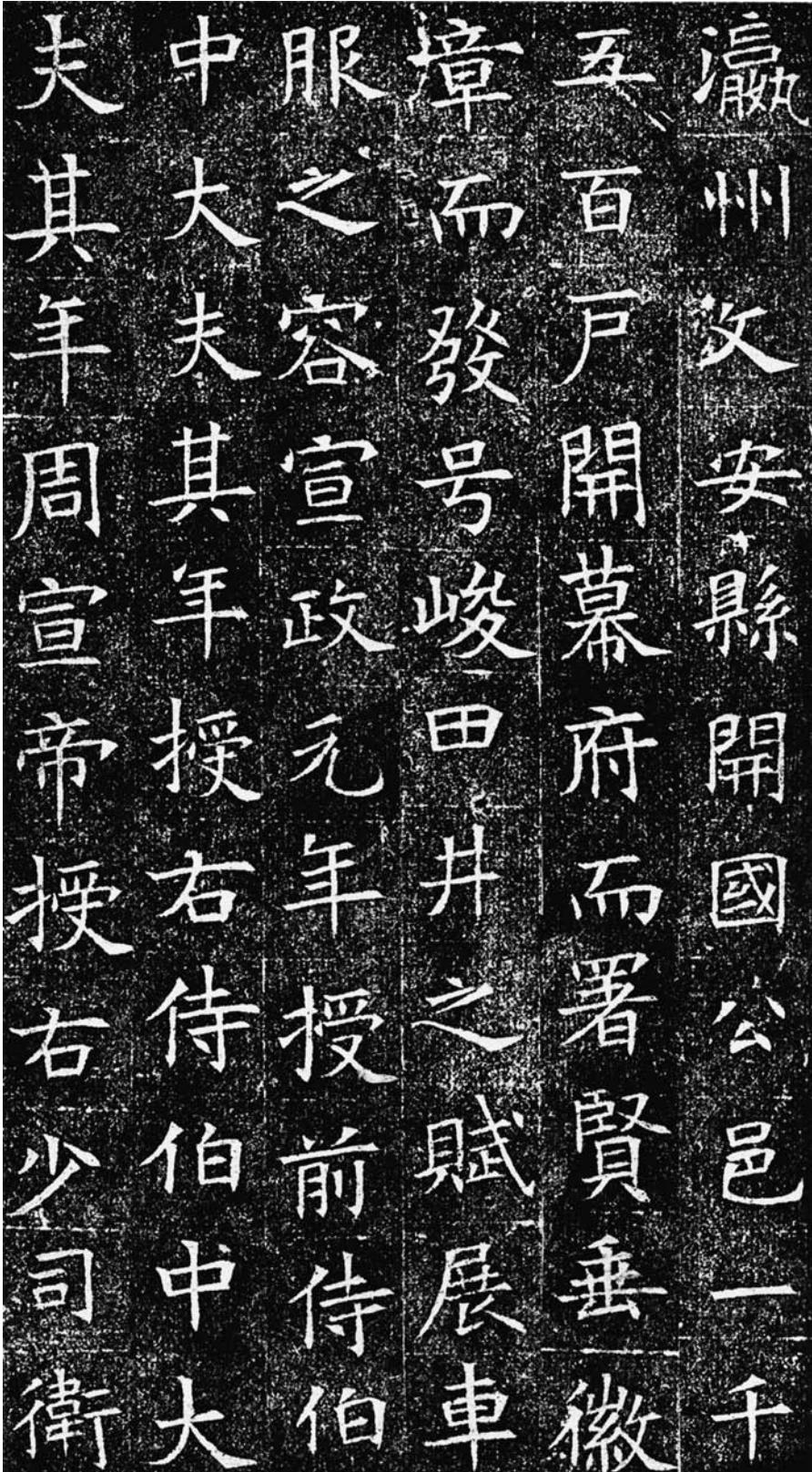
方形よりやや縦長で、右肩を少し斂むすびやかせてスマートである。
線質は美人董氏と比べるとやや硬いが、それが一層点画を鮮明に見せている。

特別研究部臨書課題

II（毎日展公募サイズ以内・縦横自由）左記の掲載以外も可

※落款を必ず入れる
署名、もしくは
(押印のみも可)

○○臨



瀛州文安縣開國公邑一千五百戶。開幕府而署賢。垂徽章而發號。峻田井之賦。展車服之容。宣政元年授前侍伯中大夫。其年授右侍伯中大夫。其年周宣帝授右少司衛。前侍伯中大夫。其年周宣帝授右少司衛。

特別研究部臨書課題

（毎日展公募サイズ以内・縦横自由）左記の掲載以外も可

上記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。（全臨も可）

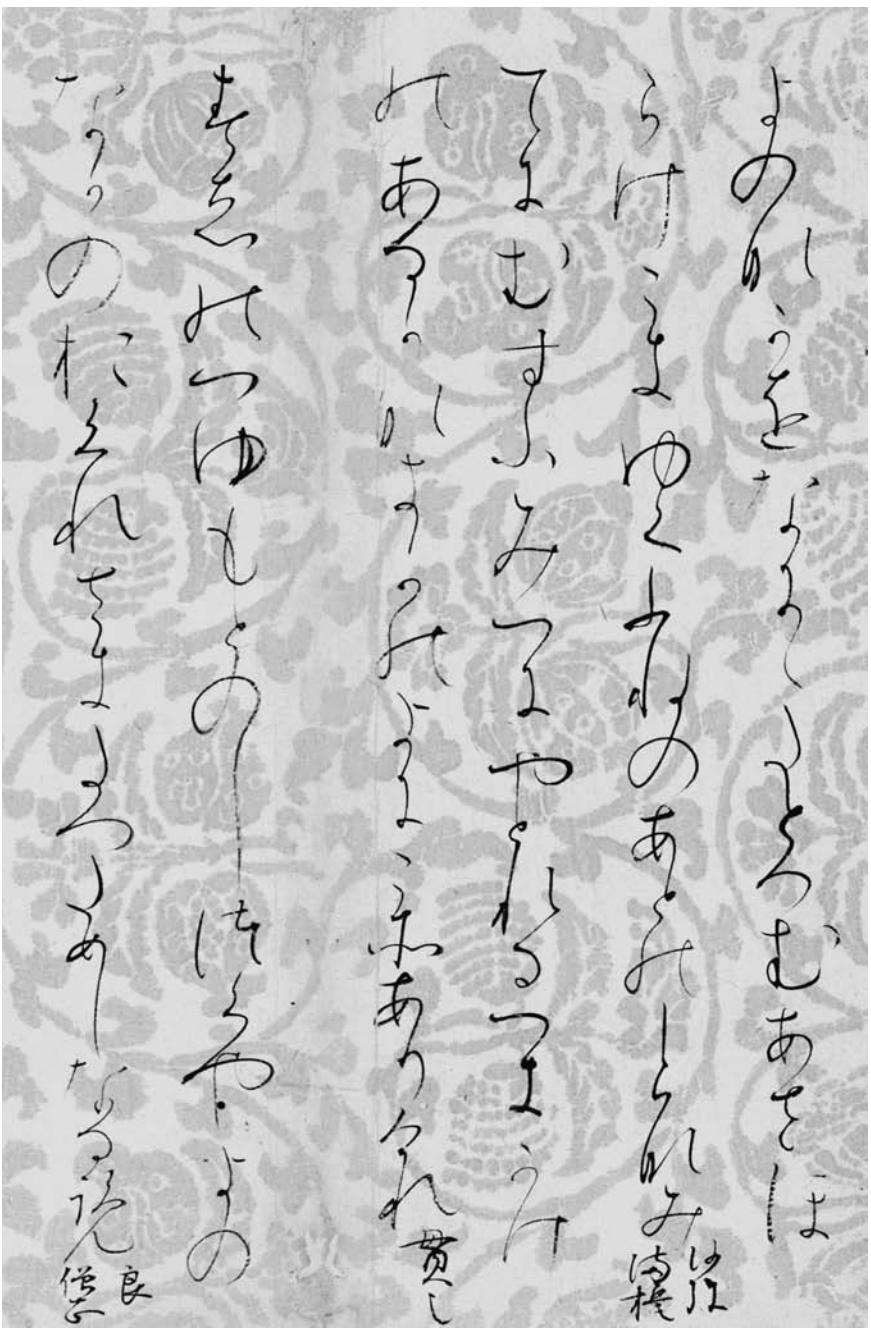
用紙
・半紙普通判（料紙可）

〈たて長に使用〉
※別紙を裁断して貼付も可。

・半懷紙は、半紙サイズに切って使用のこと。

〈よみ〉
よのなかをなに多とへむあさぼ／らけこぎゅくふねのあと能のしらな少み沙能
てにむすぶみづ尔にやどれるつきかげ支可／あるかなきかのよ能こそありけれ貢之介
す春のつゆもとのしづくやよの／なか可おぐれさき於久だつためしなる覽良正

※落款を必ず入れる。署名、
もしくは〇〇臨
(押印のみも可)



〈解説〉

粘葉本和漢朗詠集のかなは、高野切第三種を臨書した経験のある人ならば、容易に入りやすい。しかも、より単発的な短い呼吸のため、かなとしては基本に扱われることが多く、明治初期から大正、昭和と、戦後20年ごろまでは特に評価されていた。

臨書にあたっては、かなの原点にもどり、繊細でスピード感のある細線の息遣いを忠実につかみたい。

習い方解説 (二)

辻元大雲

月落露寒
(月が西に沈んで冷たい露が降りる)



月落露寒 よみ(月落ち露寒し)

書体=自由

誤字となりやすい点です。点画の長さや角度により全く別の文字になってしまふことがあります。また字形の変化を大胆に出来る点で、作品表現に動きや構成の工夫をすることも出来ますが、誤りやすいことは特に注意すべきでしょう。

似たような字形になりそうな時は、草書を使わずに行書くらいにして正確さを期すのもよいと思います。

今日は晩秋の候に因む語句です。草書を交え、渴筆による変化と味わいを狙ってみました。筆は前回と同じく羊毫中鋒筆を使用。草書單体表現で、連續は入っていません。多様な表現として連綿を入れても面白いと思います。

草書で注意しなければいけない点は、似たような文字が多くあり、

草書を交え、渴筆による変化と味わいを狙ってみました。筆は前回と同じく羊毫中鋒筆を使用。草書單体表現で、連續は入っていません。多様な表現として連

綿を入れても面白いと思います。

草書で注意しなければいけない

点は、似たような文字が多くあり、

誤字となりやすい点です。点画の

長さや角度により全く別の文字になつてしまふことがあります。ま

た字形の変化を大胆に出来る点で、

作品表現に動きや構成の工夫をす

ることも出来ますが、誤りやすい

ことは特に注意すべきでしよう。

似たような字形になりそうな時は、

草書を使わずに行書くらいにして正

確さを期すのもよいと思ひます。

習い方解説(二)

飯田春香

秋露如珠(江淹)
(秋露は白玉の如く清らかである)

る)

歐陽詢の生いたちが字に現われています。角ばってはげしく威厳があり、清く書いています。なかなか原本のようにはいきませんが、少しでも近づきたいのです。

起筆に注意をし、運筆の途中が緩まないよう、呼吸の仕方にも気をつけましょう。起筆がうまくいけばその線は成功したと言えるでしょう。

今回の課題の意の如く清らかさを出すよう念頭において書いてみました。

「露」は画数が多く大きくなりやすいので注意。「如」はがっちりとした組み立てに。



書体＝楷書

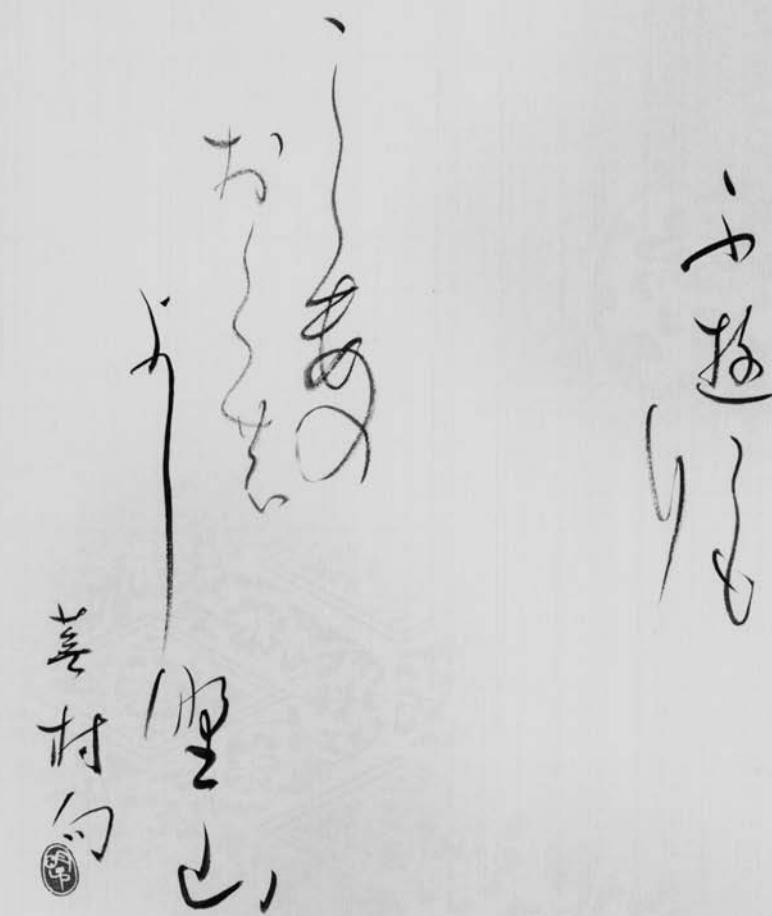
秋露如珠 よみ(秋露珠の如し) (江淹)

かな規定 初段以上【十二月十日締めきり】用紙 半紙普通判(料紙可)

石井明子選書

習い方解説(二)

冬籠心の奥のよしの山
(与謝蕪村)



廣辞苑によると、俳句とは、俳諧の句、こつけいな句とあります。そこから始って、五七五を基本の短詩形として実に幅広い内容を表現できる文学として、多くの人に愛されています。書の題材としても身近なものとなっています。

俳味を重んじて、短歌とは一味違う表現をするべきと常に意識はしていますが、困難なことです。ここでは、字数の少なさを、字粒の大きさと、行数を確保することで補うことを考えた構成を試みました。余白の形の美しさも考慮し、文字の置きかえは自由に考えました。

冬ごもりは今では考えにくいことですが、作者が、吉野山に隠棲した西行に心を寄せて過ごした冬のことが語られた深い一句です。

よみ方 ふゆ(遊)ご(心)あらこ(久)る(妻)のおく(久)の(農)よしの(野)山 蕪村句

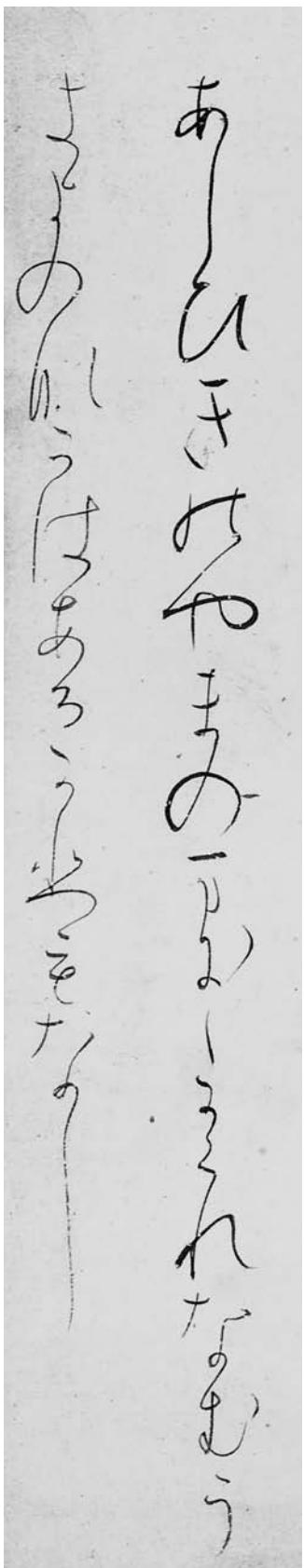
創作

かな規定 秀級以下【十二月十日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

高野切第三種

(掲載写真縮小93%)

掲載写真のうたを全體、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。



よみ方 あしひきの(能)やまのま(万)に(尔)へか(可)く(久)れなむう
き(支)よのな(那)か(可)はあるか(可)ひ(悲)も(毛)なし

かな条幅規定【十二月十日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

奥田瑞舟選書

習い方解説 (二)

奥田瑞舟

いささ瀬せの水にうつるふ夕映に
菜洗ふ手もと明るみにけり

(島木赤彦)



創作



→ 出品券
貼付位置
*よじ形式に限る

よみ方 いさゝせの(能)水に(尔)うつるふ(婦)夕映に菜あらふてもと
明る(流)み(尔)に(尔)け(介)り(里)

疎密で美しい行間ができます。
書き終って左が広く残ることが
多いです。介里を書く位置、押印
の位置を確かめてください。

漢字条幅規定 初段以上【十二月十日締めきり】用紙 小画仙紙半切

竹田尚堂選書

習い方解説 (二)

竹田尚堂



杜牧「山行」

書体＝自由

遠上寒山石徑斜
白雲生處有人家
(遠く寒山に上れば石徑斜めなり、白雲生ずる処人家有り)

馴み深い杜牧の「山行」の前半。美しい秋の山中の前方に広がる景色が浮かびます。
条幅二行書の「書き出しは穢やかに、中程に山あり谷あり、末尾は静かに収める」の基本の型を踏みました。「型に入り型を得る」ととも大事、「型を得て型を破る」ことも大事です。それぞれ意図を持つて書作してください。

漢字条幅規定 秀級以下【十二月十日締めきり】用紙 小画仙紙半切

小浜大明選書

習い方解説 (二)

小浜大明



大明書

(史記)

書体＝自由

與日月爭光
(日月と光を争う)

史記の中の言葉で「心や行いが公明正大で、日月に比するほどである」という意味です。
先月の「向勢」とは逆に、「背勢」の特徴をもつ、九成宮醴泉銘を念頭におき書いてみました。
九成宮の点画の接合部分は、「即不離」であり、そのため空間が明るい、と評されています。
その点を原本で学んでみてください。

習い方解説 (二)

見越雪枝

今回は十一月です。身内への七五三の祝い状を参考にします。

時候の挨拶とすると、晚秋、霜寒、初霜等、また草花にたとえて紅葉、菊、薫る、落葉等季節の変化や折々の風物を織り込んだ挨拶があります。

葉書のスペースには限度があるので、長々と前文を書き綴っていたのでは、用件を伝える目的が果たせなくなります。親しい間柄の人への葉書は、前文を省略するなど、ケース、バイ、ケースで判断するとよいでしょう。

書き方は、漢字を楷書、かなを二文字統けて行書風に仕上げました。しやりで少し長めに書くと空間が埋まり、流れが出ます。

雪枝書

用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

※落款を必ず入れる。
(自分の名前を入れること)

今月の

ホープ作品 各部総評

No. 605

ベン字部 師範 東平 編子

力強く丁寧な筆致に気字の雄大さが加わり、落款までの統一感が見事で、安定感を醸し出している。

◎ベン字部総評 全体的に温和で余白の美しい作品が多くよい傾向。草書作品は字形・連綿の研究を古典を基本に学びたい。（和楓評）

牧場の柵にもたれて。
子供は野葡萄を食んでる。
あ、まんまの紐。
すすきの穂。

かな条幅部 師範 藤村 昌子

自然体で街いなく、澄明な世界を創りました。紙質に墨色も適い、全てに亘り安心出来る秀作です。

◎かな条幅部総評 突然大きくなり小さくしたり、文字の大小も極端な変化はかなにはふさわしくありません。自然に！（洋子評）

前衛書部 特選 平塚 美保

紙面を自在に動いているが全体に安定感を維持している。疎密潤滑のバランスがよいためか。

◎前衛書部総評 自己の主張と表現が相俟つて多彩な作品が多く見られた。更なる挑戦を。（蓮紅評）



漢字条幅部 師範 高橋 賢雲

やや粗さも目立つが紙質と珍毫筆がマッチして潤滑のバランスもよい。長文を大胆に書きこなした。



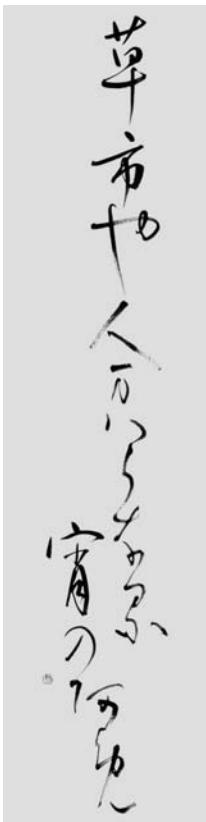
◎漢字条幅部総評 上級は長文としての工夫が見られた。下級はこの機会に顔真卿の古典に触れてみたい。日習いでも。（翠風評）



現代詩文書部 特選 岩崎 陽光

空間構成、白の生かし方が絶妙字間の間合がなんとも魅力的な作です。

◎現代詩文書部総評 楽しい作が多数あり、審査を楽しませていただきました。（無極評）



漢字部 師範 小林 椿寿

大胆な書き出し二文字の広がりが成功。運筆のリズムが紙面に動きを与え、明るく力溢れる作。

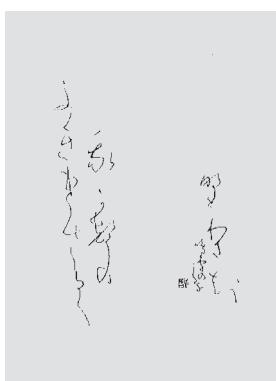
◎漢字部総評 上級者草書表現が多かったが骨格が安定しない作が目立った。運筆のリズムと共に骨力を養ってほしい。（大雲評）



かな部 師範 森田 龍博

手本をよく研究し、構成を変化させた力量は天晴。墨量の変化がよい景色を創り、細い線が美しい。

◎かな部総評 上級者にも、哉と雪の字の曖昧な人多く残念。手本を見ると、よみ方と解説を熟読玩味することです。（明子評）



今月の

特別研究部優秀作品(特選)

臨書

(澄春)

新行内芳蘭

「集字聖教序」

有圭獎法師者法門之領袖也。亦懷真教早悟三空之心。長契神情先慈四恩之行。承風荷日未三比其清華。仰盡明徳。相能方其朗潤故一智通無累。神測未形。超凡塵而超出復古。而無對。退心內境。悲三法之陵遲。相處玄門。慨深文之記。惜思欲。少瞻持經。庶幾前脩。敬惟真圓良。後學是以越心津。上法遊西域。乘光流霞。披拂雲霞。歷劫茫茫。度劫火地。夢砂夕起。空外迷太萬里。山川接煙霞。而道影七重。家庭道邦初依正教。幸蒙賜。重勞經求。深私建圖。遠西宇十有七年。家庭道邦初依正教。幸蒙賜。

新行内芳蘭臨

137×35cm

◆集字聖教序を正面からとらえ、眞面目に臨書している。原帖の表情をよく観察しているがやや堅さがあり。(大雲評)

◆丁寧で細やかに原帖と向き合って好ましい。少々堅さがないわけではないが、正統派の確かさを見られる。(洋子評)

現代詩文書

(大雲)

池田沙静

「川の流れのように」



172×45cm

池田沙静書



60×178cm

前衛書

(東峰)

亀井 健

「音靈」

- ◆墨のつぎ方が歌のリズムとよくあって思わず口ずさむ思い。筆先と力の抜き方に一寸合わない所がある。(倫子評)
- ◆奇を衒わぬ淡々とまとめ、しみじみとした味わいを出しました。細線のタッチがやや荒く感じますが。(洋子評)
- ◆太細のある線で切れがよくすつきりと全体をまとめている。墨のつけ方が中心部にまとまつたか。(蒼玄評)
- ◆無理なく自然な流れを感じさせる爽やかな作。字形やや瘦せ気味でもう少し懐の広さがあればと思う。(大雲評)

◆丁寧で細やかに原帖と向き合って好ましい。少々堅さがないわけではないが、正統派の確かさを見られる。(洋子評)

(蒼玄評)

◆字数の多い作品のまとめが全体の流れを止める事なく表現され見事。丁寧になりすぎ堅さを感じる。(倫子評)

(大雲評)

◆丁寧で細やかに原帖と向き合って好ましい。少々堅さがないわけではないが、正統派の確かさを見られる。(洋子評)

龜井 健書

臨書 (A I)
藤村昌子

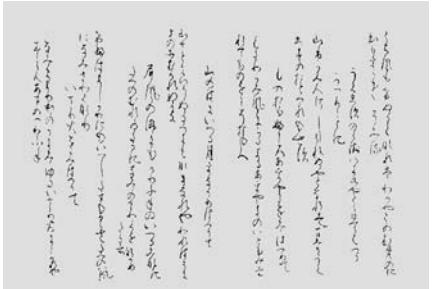
「針切」

〈全体〉



58×178cm

〈部分・拡大〉



藤村昌子臨

- ◆ 全体に明るく最後までリズムを乱さずに書き進めて見事。最後の名前は少し固くなつたかもしれない。 (蒼玄評)
- ◆ ほぼ原寸大で六尺巾二段の臨書は正に緻密な努力作。針切の特徴をよく把握しているが墨色を一考。 (大雲評)

- ◆ 濃淡の流れの美しさが全体を引きしめて呉れる。この作品を纏める為の暮しのリズムを表現か。 (倫子評)
- ◆ 先づ、氣の貫通した全臨の意欲を大いに評価します。やや墨がうすいため渴筆が単調になり惜しい。 (洋子評)

現代詩文書 (安波) 鈴木英晴

「竹村俊郎詩」

「新婚別」

漢字 (千葉) 影山扇葉

- ◆ 懐素千金帖の風を感じさせ、軽いリズムで明るく品よくまとめた。心境の高さを見せる安定作。
- ◆ やや濃墨に近い墨を上手に筆にのせ、速度に変化をつけて纏めているのが、リズム感を出している。 (倫子評)
- ◆ 行草を無駄を省いて爽やかに表現、点の扱いや字画の明るさから良寛も想起され、行間の白が美しい。 (洋子評)
- ◆ とつとつとした線性で懐素の草書千字文を思わせる。点の打ち方も的を射て空間に響いている。 (蒼玄評)

172×42cm

- ◆ 口ずさむ様なリズムを感じます。墨つぎの取り方も紙面を大きく一つにまとめているよう。
- ◆ 音楽的な墨の流れで惹きつける。字間の間^まが巧みで、筆致の柔らかさも相俟って温か味を感じさせる。 (洋子評)
- ◆ 流れるような構成でリズムを感じさせる作品だ。三行目は少し小さい方が一、二行目が生きるかも。 (蒼玄評)
- ◆ 軽妙なリズムとステップで、ほのかな暖か味を感じさせる作。潤筆部がやや多く、渴筆の効果を更に。 (大雲評)

180×60cm

影山扇葉書

鈴木英晴書

総出品点数
74点

創作の部
〔特選候補者〕
〔漢字〕

篆刻
漢字
〔漢字〕

創作の部 (54点)
漢字 - 11点
かな - 5点
現代 - 23点
篆刻 - 2点
前衛 - 13点
臨書の部 (20点)
漢字 - 17点
かな - 3点

漢字研究部
(集字(王)聖教序)

選評 小浜 大明

今月のホープ作品



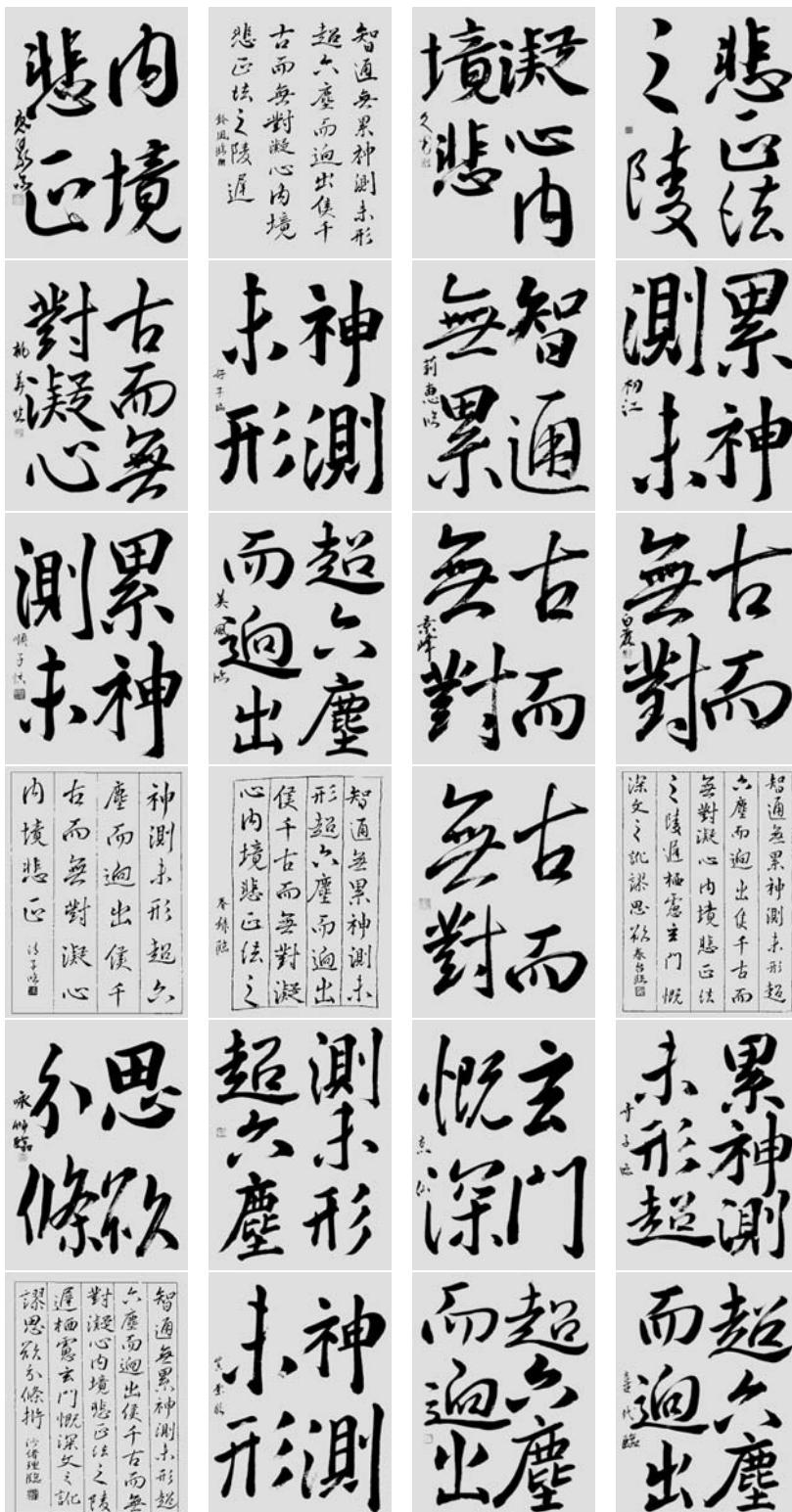
小野寺 加都

漢字研究部 総評

線強く、結体も整い、法帖をよく見て正確に表現しています。又、運筆に緩急遅速の変化を加え毛筆特有の味を出しています。見事な筆致と構成は、平素の学習の成果の表われでしよう。更なる研鑽に期待します。

寄せられた数多い作品にふれ、皆さんの熱意を感じました。臨書は書を学ぶ上で

最も大切な学習です。今後の飽くなき努力に期待しています。さて、今回の出品作は、腕が大きく、伸びやかな臨書が数多くあります。しかし、超、無、累、などの文字に正確に欠ける作が少なからずあつた事は残念でした。特に通無累…の「無」には誤りが多く見られました。臨書する前に字典等でよく調べてから書くことに心掛けましょう。



沙詠清順桃惠
緒理艸子子華泉

真翠春ひ好鈴
蘭扇綠る子風

節京嵐景莉久
柳仙泉峰恵光

幸春白初光
子子台麗江子

かな研究部
(針切)

選評 庄司紅邨

今月のホープ作品



龍 葦悟

晴 洋 蓉

英 智 志 希

美 寿 春

貞 瞳 子

子 子 汀

子 広 子

紅 子 華

石前桂 う京
橋月だる橋
幕蘭卿春 A樹英道千玉洞五竜調秀春秀小正紅玉五 A澄電泉
張鼎玄光 I原峰葉松書葉泉布水汀明江華瑠葉松 I春

内碓井五飯東
田井野十高
皓元鳳
皓玉佳幹花
泉弘香栄生子

幕蘭卿春 A樹英道千玉洞五竜調秀春秀小正紅玉五 A澄電泉
張鼎玄光 I原峰葉松書葉泉布水汀明江華瑠葉松 I春

林小亀高藤奥吉松渋小安都櫻武寺藤岩永伊鉢遠塙伊藤志
板橋村山瀬井谷川藤丸田藤澤井崎瀬藤木志
喜元鳳
皓玉佳幹花
玉華風子子峰雨子華香風り貞史子子江子広子紅子華博

特選

◎かな研究部総評
上級者には針切の特徴をよくとらえ、筆先に神經を集中した作品が多く見られました。筆の選択、墨量、行間のバランス等、もう少し配慮して欲しい作品があり残念です。

かな研究部 特選 森田 龍博
針切の細やかな筆法をよくとらえ、潤渴の妙をいききと表わしています。端正さの中に行と行との響き合いを美しく表現している作品です。

かな研究部成績表

高崎陵 入 北竹咲も紅春硯
陸美舟く苑汀水 書高有や玄高秀秀春華泉玉有樹澄う八皓松苑咲八澄電蒼戸彩蓮鬼福竹千富誉伏こ昭た高和大椿
佳作 60書
青會木 江理勇介 入 吉横山森茂宮富三前堀福平日丹長富渡玉田田武高高澁七重鹿佐佐佐齋斎込小岸菊神川河神金小小大字岩井磯安
木江理勇介 入 田山本木野澤鷲田川田由比羽島澤子木野中山橋橋谷條信田藤田山路池田崎岡谷野熊石野田上上貝藤喜
佳作 60書
桂枝子介 入 十四蘭節藤真津草敏幸魯キ美湖惠一憲紀恵可耶芳志幸典裕裕志糸木町翠美蕙千東玉典綾星雲美理代星華香子二羅子
八や 竜三大樹館八調 大広四玄高千大生広如秀華青廣泉明千椿秀高筑形た澄誠千高彩硯N八正岩誠艸正遊大千も京八秀も街ま
佳作 60書
齊齋後後紺小古小高黒熊木北北岸菊川金門加鹿香小小小岡大大大梅宇入今井伊伊石石石石池池飯新阿熱足淺青
藤藤藤藤藤野山矢林武柳谷原下村川本池本子脇藤島川高澤川田森野西崎津井谷門上藤藤藤渡橋崎坂川田田井部田助川木
桂枝子介 入 美知祥喜遊笙蹊雅玄竹紫尚都欣 萩善紫蘆信雅裕富西和ま十喜礼一信代楠悠梨静敏紫良翠知正甘惠津尚萩光春紅実君啓子
え泉子萩山洋翠子城葉蘭子子祥西高仙城子芳子子鈴子夜代子美子子麗花霞香子邦祐径子子雨子子古溪影雪清彩枝子子
こも八竹 澄高皓千蓮稻森竹玄咲大澄千大高東は椿山詢調北正千翠大佑青た竜高澄竹高正う竜咲硯う八千た昌硯春N高洞書
遷だく生鳳 春井映葉紅毛地扇舟雲春葉阪賀向せ翠田扇布陸華葉柳阪希峰か泉賀春扇陵華る原舟水の生葉か苑水汀H崎書
外125吉吉湯山柳宮松松本細船船二藤福深平比久島長橋荻野西永戸近玉田高高高高高住神進庄清柴篠紫猿猿佐佐坂酒酒
名野種浅村堀内田田重田村渡津上本川堀山田山谷本原村沢岡井村池岡中橋橋野野井吉保藤司水原田雲渡藤々々本井井
氏名略 彩藤ツ炎政幸代映翠美貴太裕紫松和清彩琴愛芝久日椿陽蕙悦宏博柳荻梢千惠雅章杏小和佳寿咏正翠楊美煌冬篁初雅和み惠花
祥玉子秀翠平子華景雪子郎扇泉啓香洗華清子香子和乃詢雅子枝舟芳翠翠代泉泉治華秋子子子艸子泉流子月華右香芳子よ子雪